

令和3年度茨城県小中学校長研究協議会（鉾田市・中学校部会）報告

テーマ：感染症対策を踏まえた働き方改革

【協議の概要（要旨）】

働き方改革の理念に基づく部活動の進め方と部活動における感染症対策等について検討し、教職員の在校時間を短縮するための方策について協議した。

1 効果を上げた具体的取組

- (1) 市内中学校の部活動については、最終下校時刻を最も遅い時期でも 18:00 までと設定した。原則、朝練の廃止と放課後 2 時間以内の活動となり、教員・生徒とも疲れを次の日に残すことなく活動できている。感染症防止と活動時間の確保の観点から、有効な時間設定と考える。
- (2) 複数顧問制の確立。市内の学校では、2 つの部活動に顧問 3 人という形を取り、輪番制で休養日を設ける等の取組をしている。今後、部活動の削減等により、1 つの部活動に対する顧問を 2 人とするなど、更なる改善が必要である。部活動指導員の活用もさらに推進したい。
- (3) 働き方改革の理念を教員が理解していくことで、教員の部活動に対する意識が変化してきている。勝利至上主義的な雰囲気は影を潜め、スマートな働き方をしながら、部活動によって生徒の心と体を鍛えていこうという考えをもつ教員が増えてきている。その影響を受け、生徒も必要以上のプレッシャーを受けずに、競技を続けている。

2 令和4年度以降の取組

- (1) 新しい生活様式に基づく取組
 - ・体育祭を半日開催とした。本来のねらいを大切にしながら規模を縮小した。生徒・保護者・教員ともに好評で、今後も継続予定である。
 - ・全校朝会をはじめ様々な集会活動をオンラインで行った。移動時間や会場準備等が節約できるので、状況に応じて継続していく。
- (2) 通常の生活に戻った後、取り組むべき取組
 - ・合唱祭を実施する場合、録音・録画方式とするなど、内容を軽減し、存続する方向である。
 - ・PTA総会を中止・書面決議とした。PTA総会をオンラインで実施、端末を活用して決議をとる等の実現を目指す。

3 今後の課題と対策

- ・意識改革の観点から
働き方改革の目的の一つに、教育活動の質の向上がある。このことを職員に十分に理解させて改革を進めていく必要がある。
- ・外部機関との連携の観点から
下校指導を教員が行っている。地域の方々に力添えをいただく内容であり、順次進めていきたい。
- ・自校の行事精選、サービスの見直しの観点から
学校行事の精選が進み、これ以上の削減は難しい。現在は内容を軽減している状況である。